

第 11 回由良川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成 25 年 8 月 26 日（月） 13:00～14:00

開催場所：中丹勤労者福祉会館 4 階 大会議室

出席者：井上委員、亀井委員、桑原委員、新宮委員、西村委員、槇村委員、升田委員、松島委員、渡辺委員（出席 9 名，欠席 7 名）

I 議事次第

1. 開会
2. 由良川水系河川整備計画（国管理区間）について
3. 由良川の河川整備の実施状況について
4. その他
5. 閉会

II 議事概要（○：委員発言，●：事務局発言）

（1）由良川水系河川整備計画（国管理区間）について

由良川水系河川整備計画（国管理区間）について、由良川水系河川整備計画（案）からの変更箇所と計画の概要を事務局から説明を行い、委員より以下の意見が出された。

○ 資料 2-1 の P4 の写真について、宮川の流れる方向も記載して欲しい。

● 記載する。

○ 資料 2-2 の P3 の水害の歴史について、昭和 40 年、昭和 47 年洪水も災害救助法が適用されたはずである。確認願いたい。

● 確認する。

○ 地元では、緊急水防災対策で大幅に事業を進めたのに、また 30 年もかけて整備するのかという意見がある。取り残されたと感じる地区が無いように住民感情に充分配慮して整備を進めて欲しい。

● 新しい地区をどういう対策で、どういう順序で整備していくかは検討しきれていない。関係市とよく相談しながら検討して行きたい。

○ 輪中堤、宅地嵩上げを整備するときに、福知山の中心市街地から旧大江町までのアクセスを考えると国道、府道の問題が関係してくる。国の政策でも防災関係の公共投資を促進するという方向性があるので、それに乗って道路も嵩上げしてつながるようにして欲しい。単に家屋を嵩上げしただけでは不安が残る。

● 河川管理者だけでは難しい部分もあるので、関係機関とよく相談しながら対策を考えて行く必要があると考えている。

○ 由良地区で説明会を開催して頂き、今後の河川整備について説明を受けて、アンケートで

由良の住民の気持ちを国土交通省に提出した。これを踏まえて原案から案になったことについて、また説明会を開催してもらえるのを待っている。今の計画案では地元から多くの反対者が出るのではないかと考えている。輪中堤が説明会で聞いた高さまで高くなる計画にはなっていないと信じているが、早く計画を地元で説明しに来て欲しい。

- 実際対策を実施するに当たっては、由良地区の眺望に配慮して欲しい等頂いた意見を踏まえて、技術的に難しい部分もあるかと思われるが、具体的な構造を時間をかけて検討する予定としている。いつになるかは決まっていないが、事業着手が近づいてくれば地元の皆様に相談したいと考えている。
- できるだけ早く説明に来て欲しい。

- 緊急水防災対策で事業費が非常に増えたが、今回策定した今後 30 年の計画でどの程度の事業費を見込んでおり、これまで以上の年間予算を確保しないといけないのか、それともこれまで通りの年間予算で収まる見込みなのか等の見通しを教えて欲しい。
- まだ調査が行き届いていないこともあり、現時点で正確な事業費を算出することは難しい。概略の事業ボリュームから判断すると今後 30 年間で現実的に実施できるものと考えているが、今後の事業費の精査状況や経済状況によって多少変動は出る。
- 緊急水防災対策となる前の年間予算規模と緊急水防災対策の年間予算規模では大きな差があると思うが、現実的にというのはどちらを想定して言っているのか。
- 現地に入って調査をして、ある程度の設計をしないと正確な事業費は分からない。感覚的な話ではあるが、下流部では 10 年間で約 500 億円の投資を行っているが、そこまではかからないと考えている。現時点の概略の数字であるので、今後調査していくと変わる可能性もある。
- 緊急水防災対策は年間 50 億円で、その前は 1/10 程度だったと思う。今後の進め方を考えるときに緊急水防災対策の年間予算規模が頭から離れない。緊急水防災対策までは行かなくても、それに近い年間予算で事業を進めて欲しいという思いがある。
- 河川整備計画はあくまでも計画段階であり、今後概ね 30 年間で進めて行く治水対策のアウトラインである。今後新しい地区の事業に着手するためには事業化という段階を経ていくが、この段階になるまでは投資計画は明確にならない。

(2) 由良川の河川整備の実施状況について

由良川の河川整備の実施状況について事務局から説明を行った。

(3) その他

会議後、懇談会委員を対象に現地見学会を実施した。

以上